



聴覚障害者向け映像教材

「字幕」もつと工夫を

【江別】札幌学院大の学生や教員でつくる「サポートデスク」は十九日、同大で、聴覚障害のある学生向けに開発した字幕入り映像教材について、利用者の意見を取り入れ、質の向上を目指す意見交換会を開いた。

サポートデスクは、パソコン操作が不得手な学生へのアドバイスなどを行う学内組織。聴覚障害のある学生のために講義内容をノートに記したりパソコンで文字に残す作業に取り組み別の学内組織「バリアフリー委員会」の要請を受け、二〇〇七年十一月から、映像教材に字幕を入れる作業を始めた。これまでに約六十本を制作。障害者の結婚をテーマとしたドキュメンタリーなどで、ナレーションや登場人物の発言などが字幕化され、講義に用いられている。

利用者ら交え意見交換

札幌学院大

聴覚障害者向けの字幕入り映像教材について真剣な議論を交わした意見交換会

この日の意見交換会は、利用者の声を今後の制作に生かそうと企画。バリアフリー委の学生や教職員ら約四十人が参加した。

聴覚障害のある女子学生は字幕の行数について「三行になると映像に集中できず、二行に収めた方がいい」、別の女子学生はせりふについて「誰が発言しているか、カットを付けるなど工夫して分かりやすくしてほしい」と要望した。字幕を出す適切なタイミングなどについて



も意見が出された。サポートデスクの北見快催さん(社会情報学部四年)は「意見を生かし、より良い字幕にしたい」と話していた。

(相川康暁)